

## ○ はじめに 開校3年目 「伝統・魂・絆」の創造 堂々と進む，誠実に歩む

3校統合の経緯，潟東小中一貫校の設置の目的をふまえ，2年間の教育活動を総括し，「伝統・魂・絆」の創造・確立に向けて，全教職員が学校運営・教育活動に全力を注いでいく。

### I 教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく

### II 学校経営の理念

笑顔輝く潟東小学校  
子どもたちはもちろん，保護者も，地域も，そして教職員も

子どもたちの「笑顔」は，「自己実現」「自己有用感」「達成感」「克服感」の表出であり，学校・家庭・地域が連携しすぐれた教育を積み重ねることで実現する。

- 教職員が「授業力」「組織マネジメント力」「人間力」を磨き，価値ある教育活動を計画的・組織的・継続的に展開することで，子どもたちの「笑顔」を輝かせていく。
- 家庭・地域の力を結集することで，学校教育は拡充し，より大きな成果につなげることができる。家庭・地域と連携した取組を進め，子どもたちの「笑顔」を確かにしていく。

子どもたちの「笑顔」は，保護者，地域，そして私たち教職員の「宝物」である。子どもたちの「笑顔」を支援し，子どもたちの「笑顔」を共有し，子どもたちの「笑顔」を自らの「宝物」にし，さらに「笑顔」で子どもたちに還元する。学校・保護者・地域が共に手を携えながら互いの「笑顔」を光り輝かせる教育を推進していく。

### III 学校経営の基本方針

#### 1 「自己実現の笑顔」を保障する学習指導を推進する

- 「分かる授業」「できる喜びのある授業」の日常化を目指し，授業力向上を学力向上の柱とする。教職員相互の「磨き合い」を進めるとともに，外部の指導・批評を授業に生かす。特別支援教育を「教育の原点」ととらえ，UDLを意図した授業を進める。
- 地域の諸団体・諸機関・地域住民・保護者等の人財を学習指導に活用する。ゲストティーチャーによる指導，ボランティアによる支援の充実を図る。家庭学習と読書習慣の定着を図るため，家庭・地域・潟東中学校との行動連携を推進する。

#### 2 「自己有用感の笑顔」を実現する心の教育を推進する

- 自律性・社会性を育む活動を教育課程に位置づける。にじいろ班（異学年グループ）での活動の充実を図り，リーダーシップ，フォロワーシップを育成する。人権を尊重し，いじめ・差別をしない・許さない実践的態度を育成するために，人権教育・同和教育を推進する。
- 豊かな心の育成，いじめ見逃しゼロを目指し，道徳授業の公開，たより・保護者会や地域の会合等での広報・啓発を行う。地域住民の参加による体験的活動，社会教育施設・諸団体等との連携によるボランティア活動等への参加を促す。

#### 3 「達成・克服の笑顔」を支える体力・健康づくり，食育を推進する

- 体力と気力の醸成をねらい，学校行事と関連させた体力づくり活動の充実を図る。子どもたちの目標設定・取組・評価の指導・支援に力を注ぐ。養護教諭・栄養教諭の専門性を活かした健康教育・食育を推進し，健康についての関心を高める。
- 体力テスト，健康，食に関する指導の状況を保護者・地域住民・社会教育団体に発信し，学校とともに事業・活動が推進できるよう働きかける。公民館・各種団体主催の体育・保健・食育イベントへの参加を勧め，体育・健康づくり，食育の機会拡充を図る。

#### IV 今年度の重点目標（別紙「学校教育ビジョン」参照）

#### V 教育活動・運営活動の推進にあたって

##### 1 各プロジェクトの充実

学校教育ビジョンに示した「達成目標」「連携目標」「方策（教育活動・運営活動）」は、昨年度の学校評価の成果と課題を基に、重点化・精選を視点に策定したものである。目標の確実な実現を目指し、「特別支援教育」「学力向上」「心の教育」「体力・健康」の4つのプロジェクトを中心に、学校評価システムを活用しながら「教育活動・運営活動」を推進する。

##### 2 学級経営の充実

学習指導、生徒指導の基盤となるのは学級経営である。担任の指導力と専門性・個性・感性を生かし、また他の教職員、家庭と連携しながら学級経営を進め、児童の所属感・連帯感を育む。道徳・学級活動をとおして、より高い価値観、規範意識、自治能力を醸成する。子どもたち一人一人の状況・心情をきめ細かく観察し、迅速に対応する。

##### 3 職員研修・OJTの推進

「ベテラン・中堅が若手を導き、若手はそれに応じて努力し、ベテラン・中堅はさらに奮励して・・・」というサイクルの中で「授業力」を磨き合う。授業を公開し互いの授業力向上を支え合うとともに、自らの授業の状況を振り返る機会とする。日頃の一つ一つの授業・事務・校務等がOJTであることを自覚し、確実に、着実に進める。教師・公務員としての使命・誇り、生き方や立ち居振る舞いなどを含めて研修を進め、自らの力量向上を目指す。

##### 4 学・社・民の融合による教育

子どもたちの「生きる力」を育むために、様々な立場の多くの大人が一丸となって教育にあたるシステムを構築する。「できた」「分かった」瞬間を見とり、認め、賞賛できる大人を、最大限に学校教育の場に導入する。地域教育コーディネーターをパイプ役に、保護者はもちろん、祖父母や地域のアクティブシニア、教員OB等の人財をゲストティーチャー、ボランティアとして活用する。

##### 5 広報活動・説明責任

学校の方針や教育活動の様子、子どもたちの状況の保護者・地域への広報・説明は、学校・教職員の使命である。たより・ホームページ・メール配信・電話・懇談・家庭訪問等、最良の方法を用いて確実に、誠実に行う。問題発生時は、「フェイス・トゥ・フェイス」を基本とし、その日のうちに解決の見通しを示すか、または回答の日時を約束する「今日行く」を進める。

##### 6 「潟東小中一貫校の開校」に向けて

新校舎は「実施設計」の段階となる。教職員の英知を結集し、設計に寄与していく。校舎移転に向けての対応・準備を始める。潟東小学校・潟東中学校・潟東地域にふさわしい小中一貫教育を具体的に進める。「最大限の教育環境の維持」を視点に、現校舎の管理・整備に努める。

#### VI 教育に携わる者として

- すべての教育活動を「安全・安心最優先」で進める。日頃の安全点検を確実にを行い、学習活動・学校行事は安全・安心の視点で確認しながら企画・運営・評価を行う。決して無理をしない、無茶をさせない。校外学習は原則として、担任と他の教職員かボランティアの複数で引率する。
- 危機管理は「悲観的」に進める。「さ（最悪の事態を想定し）・し（慎重に）・す（すばやく）・せ（誠意をもって）・そ（組織的に）」を基本に、教職員が一丸となって対応を行う。
- 子どもたち・保護者・地域住民、そして教職員相互の人権を大切にされた言動に心がける。「ことば」の重さを認識し、人権感覚を研ぎ澄ませていく。

#### VII 組織人として心がけること

- 縁あっていっしょに仕事をするようになった「チーム潟東」である。「一期一会」の精神で、互いに助け合いながら、切磋琢磨しながら校務と研修を進める。
- 「スタッフ」のよさを生かして、互いに主張、専門性、アイディアを出し合いながら計画・運営・評価を進める。「ライン」を大切に、「報告・連絡・相談」を確実に進行。すべての情報は各主任に伝わり、そして教頭・校長に集約されるようにする。
- 一人で悩まず、一人で判断せずに、同僚・教頭・校長に相談する。互いに目配り、気配り、声掛けに努め、あたたかさやさしさにあふれた職場環境づくりを進める。